

令和6年度 第1回栗東市子ども・子育て会議 会議録要旨

日時・場所	令和6年5月21日（火） 午後6時30分～午後8時25分 栗東市危機管理センター3階大研修室
出席委員	山守慎介委員、筒井陽子委員、白井洋一委員、斎木真奈美委員、浦谷ふみ子委員、沖田文子委員、山本初子委員（副会長）、井上和子委員（会長）、中川章子委員、北村一子委員、長岡由美委員
欠席委員	西野好砂紀委員、谷裕子委員、加藤雅也委員、山中忍恵委員、木築野百合委員
事務局	こども家庭局長、幼児課長、幼児課参事、幼児課係長、幼児課職員2名、こども家庭センター所長、こども家庭センター係長2名、子育て支援課長、子育て支援課長補佐、子育て支援課係長2名、子育て支援課職員 ジェイエムシー株式会社
事 項	1 開会 2 市民憲章唱和 3 挨拶 4 委員及び事務局職員紹介 5 議事 （1）事業計画に基づく令和6年度の取り組みについて【資料1】 （2）令和6年度 特定教育・保育施設の入園申込等の状況について【資料2】 （3）特定教育・保育施設の利用定員について【資料3】 （4）第3期子ども・子育て支援事業計画策定について【資料4～6】 6 その他 7 閉会

1 開会

- ・事務局より傍聴希望者がいないことを報告した。

2 市民憲章唱和

3 挨拶

- ・会長挨拶。

4 委員及び事務局職員紹介

- ・委員自己紹介。
- ・委嘱状交付。
- ・職員自己紹介。
- ・参考資料説明。

5 議事

（議事1）

事業計画に基づく令和6年度の取り組みについて【資料1】

- ・事務局が資料の説明を行った。

委員

保護者が早朝から出勤する場合、子どもが小学校に入ったら学校が開くまでの時間に子どもの居場所がなくて困っている。他市の事例で早朝に体育館を開放して警備員を置いて朝早く学校に来る子どもに対応しているとニュースで見たが、栗東市ではそうした対応は考えていないのか。

- 事務局 第2期計画では親が早朝出勤する子どもへの対応は計画されていない。学童保育所での受け入れは現状難しい状況である。今回のニーズ調査結果を踏まえ、第3期計画の策定に向けて、本当に市として必要な施策を検討していく必要がある。
- 委員 学校だけでなく地域も含めて対応しないといけない課題である。
- 会長 保育園は7時くらいから預かっているが、実際に早朝出勤する親はどう対応されているのか。
- 委員 職場の時短を使うなどが新聞に書かれてある。
- 会長 学校現場では、早く出勤した教員が対応しているのが実情だった。
- 委員 先生の負担が大きくなっている中で、地域のボランティアや民間事業者等どこかに委託するなどの方法はないだろうか。
- 会長 そういった子どもが現実にいるということを我々は考えておかないといけない。地域の支えあいで支援することも考えられるが、地域の支える力が必要となってくる。
- 委員 児童数に対する園や学童の先生の割合は把握しているのか。急に辞める場合も対応できているのか。
- 事務局 各園での職員配置、学童保育の指導員配置には基準があるので、基準を満たしているかどうかは把握している。突然明日辞めるということはなく、事前にわかった段階で対応策は検討していただいている。また、園では担任をもたないフリーの先生もいるので、一時的に対応はできている。
- 委員 学童保育で夏休みだけ預ける制度がないが、他市では夏休み期間だけ預けることができる制度がある。そういった制度を検討していただきたい。
- 事務局 夏休みだけ預かる児童と一緒に保育するということは、難しい現状があるという意見も聞いている。市では学童保育の待機児童を出さないことを優先目標として対応しており、夏休みのみの預かりは今後の課題として検討していく必要があると考えている。
- 委員 栗東市学童保育連絡協議会でも夏休みだけの預かりを希望する保護者の声を聞いているが、常時学童を利用している子どもと長期休暇期間だけ利用する子どもとでは生活リズムがまったく違う。子ども同士の関係性もデリケートな問題で、教室での関係性と学童での関係性の違いなどからトラブルが起こるといったことがあるので、現状は長期休暇のみの預かりの体制はとりにくいという話は現場からもあがっていると伺っている。

(議事2)

令和6年度 特定教育・保育施設の入園申込等の状況について【資料2】

- ・事務局が資料の説明を行った。

意見なし

(議事3)

特定教育・保育施設の利用定員について【資料3】

- ・事務局が資料の説明を行った。

意見なし

(議事4)

第3期子ども・子育て支援事業計画策定について【資料4～6】

- ・事務局が資料の説明を行った。

委員 資料4の10ページに児童館への要望で「毎日行けるようにしてほしい」とあるが、現在、栗東市では児童館の開館状況はどうなっているのか。

事務局 9館のうち2館は週6日、1館は週4日、残りの6館は週3日の開館である。規則に定めっているとおり開館しているが、過去に職員が足りず、数館休館した時期がある。そこから体制を再構築して現在の体制になっている。

副会長 ニーズ調査は細かいところまで出していただいた。それを資料6にうまく落とし込まれている。個人的に心配しているのは、今年度から認定こども園に移行した園があるが、夏季休暇中の預かり保育を利用する子どもと休んでいる子どもとが上手くいくようにと思っている。

委員 朝に子どもの見守りをしているが、表情が気になる子どもを見ると、誰かにつないだ方が良いのではないかなと思う時がある。子どもの名前も教えてもらえないので心配な子どもに気づいても何もできない状況である。もう少し連携をとれないかなと思う。

委員 小学校の立場でニーズ調査の概要版を興味深く見た。保護者の意識や悩みを知ることは我々にも非常にためになる資料である。今年度、巡回相談という形で、市のスクールカウンセラーを月1回、保護者の相談にも乗ってもらえるようにしたところ、非常に高いニーズがあった。学校以外にも保護者が子育ての不安を気軽に相談できる場所が増えるとよい。施策体系図は3本柱でよくまとまっている。子どものため、子どもを支える家庭のためは当然重要だが、地域社会全体で子どもの育ちを見守る人みんなの幸せ（ウェルビーイング）という理念が計画のどこかに込められるとよい。

委員 体系図では地域における多様な子育て支援の充実を打ち出しているの
で、学校など横のつながりを持ちながら進めていってほしい。

委員 他市の人からは栗東はもともと子育てしやすいまちで、栗東市が最初に始めたことが多かったが、今は他市の方が進んできたと言われる。次の計

画では、以前のように栗東市が一番進んでいると言われるように期待したい。

委員 自分も子育て中の親である。子どもをメインで考えたときに、親の勤務の都合で子どもの居場所を考えて決めてしまうことについてどうなのかと思うことがある。夏休みには子どもを7時に学童保育に預けたいという保護者の希望がある。そういった状況の中で可能な限り対応していくことは、ゆくゆくは子どもの生活の充実につながる。コロナ禍で3年間イベントがまったくできなかったことで、関係各所や保護者とのつながりが切れてしまっている。子どもメインのイベントが実施できていないのが残念である。今後は関係機関にも協力してもらってイベントを開催していきたい。

委員 子育て中の親として、市の計画を全く知らない状況である。これだけの計画があることを、子育て中の親がどれだけ認知しているかと思った。市の取組がもっと周知されるとよいと思う。

委員 アンケート結果を見て、共働きが増えているのは、一つは男性の育児休業取得が進みつつあるのかと思った。また、社会全体が人手不足で働き手を求めている状況があると思う。体系図はすっきりと整理されていて、わかりやすい。小1の壁への対策について、一つの方法として、学校の開門時間まで学童保育所で預かるなどの方法がとれないか。

委員 長年就学前の子どもと関わってきているが、アンケートでは、日頃子どもを見てもらえる親族や知人がいる保護者は多いが、見てもらえる人がいない家庭が一定数存在する。園に子どもを預けていても何かのときにどこに頼ればよいか悩んでいる保護者もいる。子どもを育てる家庭の機能が低下しているのは、子どもへの関わり方をゆっくり考えるゆとりがないのも現実かと思う。そうした現状のなかで栗東市ではどのようにしていくのかを検討するのが大切だと感じた。

委員 20年前は、栗東市では各学区に児童館が1つずつあることをすごいと思っていた。国が打ち出している「こども誰でも通園制度」について、児童館施設の職員補充や施設整備等で対応していけないかと思う。夏休みの預かり保育は就労が条件になるが、以前、他市のこども園の保護者から、夏休みに毎日園に行っている子どもと休んでいる子どもでは、同じ園に通っているのに同じ体験ができないことが不公平だという話を聞いた。保護者がそういった不公平感を感じないような対応も考えないといけないのではないか。

会長 全国にはいろいろな実践があるので、よいところを参考にしていくことも大事かと思う。

6 その他

次回の会議日程について

- ・ 次回の会議は、7月下旬の開催予定としている。

7 閉会

- ・ 副会長挨拶。

以上